

【ぶっちゃけ！、「現在の就職」の「こわーい」真実】 050812 著作権保持

[桜井芳生 sakurai.yoshio@nifty.com](mailto:sakurai.yoshio@nifty.com)です。以下は、ただいま執筆中の就活本の下書きです。無断引用などかたくお断りします。ご意見、ご感想、ご質問などいただけると、幸いです。
<http://homepage3.nifty.com/sakuraiyoshio/>

+++++

050811【ぶっちゃけ！、「現在の就職」の「こわーい」真実】

050811 みなさん。お元気ですか？。まだまだ、あついですねえ！。今日は、夏休み大サービス、「こわーい！、怪談」として、「ぶっちゃけ、現在の就職の真実」をおおくりします！。

050811 何年も、学生さんの就職支援をしていると、「毎年の負けパターン」のようなものがみえてきます。

050811 また、「ひとには、言えない、こわーい」真実も、おぼろげながら、みえてきます。

050811 しかしまた、一方、学生さんは、毎年「はじめての体験」として、就活をしますの

で、
大人ならだれでもうすうすわかっているような「こわーい真実」を知らずに、「そんなんじゃ、失敗するに決まっている！」ような「夢想！」をたずさえて、就活戦線にやってきては、

「毎年のパターン」で、「敗退」していきます。

050811 というわけで、今日は特別サービスで、そのような「こわーい」真実を、そうっと、あなたにだけ、お教えしましょう！

050811【SPI（性格検査も）と、体格（男）・容姿（女）で、ほぼ決まってしまう】

050811 就活というと、いまでも「面接」幻想、とでもいったようなものがあるようです。古典本『面接の達人』以来、就活参考書の主流は「面接」対策本です。最近では、ES 対策本も多いですが、これも「書かれた面接」への対策本ですね。

しかし、いまや、採用は、SPIをはじめとする「筆記試験」を中心にまわっています。大きな会社ほどそうです。

まず、能力検査（知能検査）で、絞られます。「倍率の高い」会社ほど、この偏差値で絞られます。ここで絞らないと、採用人事しようがありません。

まあ、採用予定人数の「10倍」以上の人数（それより「順位が下の学生さんたち」）は、能力検査の偏差値で落とされるのではないのでしょうか？。

そして、たとえ、すぐにおとさなくても、以下述べる性格検査で落とす人数への「保険」として、キープしているだけで、実質上の選考は、「能力検査で、採用予定人数内にはいつている学生」を中心にされるでしょう。

で、「性格適性検査」です。SPI2のホームページをみると、能力検査よりも、こちらのほうが、メインになっています。評価票の実物をみることができます。13個の因子に分類され、受検者の性格がスコア化されています。

050811 とくに、注目にあたいするのが、その評価票での「コメント（例）」です。「感情がこまやかで些細なことにもよく気がつく方だが、内面的に繊細で人間関係のあつれきやプレッシャーに弱く、職場にうまく適応できないことはないか」とあり、そのチェックポイントに対応した、「面接質問例」までのっています。

ここでは「学生時代、ゼミやサークルで、皆と協力して取り組んだ課題について話してください。1.その時あなたはどのような役割で、どのように関わりましたか。2.周囲と意見が対立したことはありましたか、その時あなたはどのように対応しましたか。3.その活動のなかで、自分を合わないと感じたのはどのような人でしたか。4.合わない人と一緒に何かする時には、そのように対応していましたか（3.4.では、周囲との対立や合わない人を避けたりすることはないかを確認）」というように、最後のカッコのなかでは、この質問で「なにを確認すべきか」まで手取り足取り、かいてあります。

このように、SPIの結果を確認する場に面接がなっているのだ、と言うと、本当に、SPIなんかの紙のテストで学生にひととなりかわかるのか、と疑問におもうひともいるでしょう。

しかし、かんがえてみてください。SPIひとり、約5000円かかります。受験者の人数をかんがえると、会社にとっては、かなりの出費です。SPI性格検査、【金だして、やった以

上は、その結果を十分利用している】とかんがえるべきでしょう。

もし、あなたの受ける会社が、SPI（その他、類似の筆記試験）を、費用をだしてやっているのなら、【その企業は、その試験を信用しているのだ】と考えるべきでしょう。

この「紙に書かれたスコア」は会社の「中を流通」します。面接は、紙に書かれたスコアを「実際に確認する（だけ？の）」場、となるでしょう。紙の評価を修正するにしても、ここでは、「ネガティブチェック（スコア上は「良さそう」だったが、やっぱり「ダメだ）」がほとんどでしょう。スコア上「圏外」のひとが、面接で逆転することはほとんどないでしょう。

そして、「紙上の評価」で「同点」となったときには、「見た目」（男性は体格、女性は美貌）が「最後の一票」のはたらきをしてしまう場合もおおいでしょう。

というわけで、人気企業受けるひとは、能力検査「偏差値70」、性格検査「営業（以下参照）にぴったり」が、ほとんど「必要条件」でしょう。

050811【「文系四大卒」は、ほとんど、「営業」！】

「職種」にかんしても、学生さんたち、なーんか「夢想」してますよねえ。

会社はもうIT化してます。むかしの「事務」なんか「MS オフィス」がやってくれます。

ので、「文系」でほしい職種は、「クリエイター」と「営業」だけです。

で、よーっほど、才能があつてそのために死ぬほど努力している人しか、プロのクリエイターになれないのはいうまでもありません。

22歳にもなって「ボクはなににむいているだろー、なにしたいんだろー」なんていっているひとが、すぐ「採用」されて、「金の稼げる、クリエイター」になれるはずないですよねえ？。

というわけで、文系大学生はほとんど「営業」です。会社ごとに、いろいろ「名目上の呼び名」は変わるかもしれませんが、「営業」です。「そう」おもっていたほうが、「幻滅」しません。

ですから、「営業」をするのだ、と覚悟しましょう。

「向こう（会社）の視点」からいえば、【「営業する覚悟のある学生」しか、とりません】。

求人票上の表記は、「営業」とかいてないかもしれませんが。「企画」なんてかいてあるかもしれません。

しかし、会社（厳格な職種別採用をしている場合以外）なんて、そのときそのときの状況で、「だれ（社員）を、どこにどばすか」なんてわかりません。社員は「コマ」です。「あれやだ、これやだ」とかいわれては、「配置」ができません。

ので、どんな名目で入社しても、「営業」やらされる可能性は大だ、とおもっておきましょう。

「えー！、営業？、ボク、内向的だからむかないよー」っていう人もいるでしょう。世の中「ボクは平均より内向的だ」とおもっているひとけっこう多いみたいです。でも「営業」しか、職はありません。

「内向的だから、営業に向かない」というのは、あなたの思いこみにすぎません。『内気な人の営業にはコツがある！』という本があります。ぜひ、参考にしましょう。「ボクは内気だから営業にむかない」と思うのではなくて、「ボクの内気をいかした、営業」をしてみよう。と、「楽しんで」みましよう！

050811【統計スキルのない人は、いっしょう、営業！】

050811、それでも、「一生、営業」じゃ、いやだ！、っていうひといるかもしれません。しかし、「統計スキル」ない人は、営業から企画などにまわしてもらうのは、無理でしょう。

050811 会社もアカウントビリティ化しています。大組織のなかで、何かの企画をとすすのには、データ分析とそのプレゼン能力が必要不可欠です。とくに、最近、POS などのおかげで、「データ自体は腐るほどいっぱいある」場合が多いです。

そのデータを統計ソフトを駆使して分析できないひとは、会社の意志決定に参加できないでしょう。もちろん、統計スキルがあれば「十分」ということはありません。たんなる「必要条件」にすぎません。

050811【どうせ営業なら、「自己分析」は不要（有害）。ブランド企業へ。ブランド企業でなければ、「小さい、ナンバーワン企業」へ】

050811 というわけで、就活のはじめに、「自己分析」をしてもむだです。自己分析したって、就職さきにある職種は、どうせ「営業」だけなのですから。むだだけでなく、有害だともおもいます。自己分析の結果、多くの学生さんが、「ボクは、営業にむいてない」とおもうでしょう。しかし、職種は営業しかありません。自己分析による「自分への先入観」が「会社」「業界」と出会うさいの「バリア」になってしまいます。「ボクは だから、この種の職種・業界は向いていない」などとかんがえないようにしましょう。

どんな業界いったって、具体的にやることはそんな違いはありません。「営業」です。

ただ、社風の合う会社の方が、気持ちよく営業ができる、ということはあるでしょう。直感的な「合う・合わない」は意外に重要です。

しかし、社風なんて、そう簡単に、そこからは、わかりません。まずは「門戸を閉ざさない」こと。

どんな会社・業界いったって、やることは似たようなもんだから、「ブランド企業をめざす」というのも大賛成です。「他の諸条件が同じならば」ブランド企業にいったほうがそうでない企業に行った場合とくらべて、気持ちよく仕事できるでしょう。

しかし、多くの学生さんが「同様に行動している」ということをわすれないように！。会社の側から見れば、「うちの会社をうける必然性のない多くの学生が、たんに有名だからという理由で、うちを受けてる！」とみえるでしょう。そして、その会社は「ほとんどの学生をおとさねば」なりません。

「SPIの点数が非常に高く」、【かつ！】、「他の学生にない才能を持っている」ごく少数の学生が採用されるだけでしょう（千分の一ぐらい？）。「(ほとんど)すべて」の、学生は、落ちるでしょう。

050811 落ちて、ここで、しょげる必要はまったくありません。なにしろ、仕事の内容は、「営業」で、どの会社いっても似たようなものなのですから。

050811 いまさっき、「ブランド企業をうけるのも大賛成」といいましたが、これは「現実的な滑り止め対策ができていれば」という条件つきなのはいうまでもありません。後者ができていなければ、あなたはたんなる「夢想者」です。

050811 べつのところでものべたとおり、「小さなナンバー企業」がおすすめですが、ここもけっこう倍率高いでしょう。

しかし、ここを落ちて、しょげる必要はまったくありません。なにしろ、仕事の内容は、「営業」で、どの会社いっても似たようなものなのですから。

じゃ、「どこでもいいから、就職しろ」というのか？、と言いたくなるでしょう。

「はい。そうです。ただし、後で述べる、避けた方がいい会社をのぞいて」ですが、、、。

なぜか？。その理由は、次々項で。

050811【インターン、新卒採用、第二新卒、までいれた、三回戦。「新卒就職」は「給料つきインターン」のつもりで、「気楽に、初期萌え」しよう】

多くの学生さんが、「どこでもいいから内定とろう」とはなりません。その理由もわたしはわかっています。「こんな会社にきまったら、ボクの一生、決まってしまう！」とおもうから。でしょ？。

いうまでもありませんが、これは、「まったくもって、非合理的な思いこみ」にすぎません。

日本の雇用においては、被雇用者はいつでも自分からやめることができます（それにたいして、雇用者は正社員をかんたんには解雇できません）。

ですからあなたは「いつでもその会社やめる」ことができるのです。ですから、その会社の内定し、入社したとしても、「それでボクの一生、決まってしまう」というのは、「完全な誤り」です。

わたしとしては、「新卒内定」をもっと、「気楽に」かんがえたほうがいいとおもいます。学生さんは、実社会をほとんど知りません。ですから、インターンなどして、現実の会社の実際の仕事がどんなものか体験してみます。

しかし、それでもまだ不十分です。じっさいに一度、正社員として就職してみて、やっと、現実会社の仕事がどんなものかわかってきて、しごとへの自分の向き不向きがみえてくるということが現実でしょう。それで、「第二新卒」のように職探し・転職をする。

このパターンは、現状では、しょうがないとおもいます。

むしろ、「インターン」「新卒正社員」「第二新卒就職」の「三回戦」だとおもって、「新卒就職」は、本番まえの「二回目の（給料つきの、いつでもやめれるし、いつまでもやめなくてもいい、チョーおいしい）インターン」なのだ、というぐらいにかんがえるといいとおもいます。

こうかんがえると、新卒時での就職を、「結婚のような永久就職なのだ」と過度に決定的に考えずにすむとおもいます（いうまでもなく、結婚も、永久就職でなくなってますよね）。

ただし！、このような「気の軽さ」を会社には悟られないようにすること！。会社はいま「せっかく、てまひまかけてとったのに、すぐやめてえ、、、。もう、こんなヤツとらない！」と、ぶんぶんです。

では、どうすれば、いいでしょうか？。

恋愛でいう「初期・萌え」の波を利用すれば、いいんです。

さきほど、「自己分析などで、自己限定して、会社への出会いにバリアをつくらないように」といいました。

こうして、「門戸開放」して、いろいろな会社さんと「出会い」ましょう。

そして、直感的な「好き・嫌い」を大切にしましょう。

ちょうど、恋愛の初期に、「萌え」ていくような気持ちのたかまりを大事にしましょう。

この「初期・萌え」の波を利用して、内定とってしまうんです。

「内定さえとってしまえば」、じっさいに、その会社に就職するかどうか、就職してどれほど（一生？）働くかどうか、は、「あなたの権利（選択権）」です。この権利（内定）がひとつしか手の内にはない場合には、その権利を絶対ではなさないように。

050811【「内定ブルー」は「婚約ブルー」】

恋愛でいう「初期・萌え」を利用してますから、当然「反動」は来ます。いわゆる「内定ブルー」です。

恋愛の「初期・萌え」の「反動」ですから、「婚約ブルー」と心理はおなじですね！

あなただけでなく、ほとんどの学生さんが、多少なりとも「内定ブルー」を感じるのだ、ということはおぼえておきましょう。

内定ブルーはかんじてけっこうです。ただし、そこで、内定を辞退しないこと。くりかえしますが、これはあなたの「権利（選択権）」です。ですが、他の選択肢を手に入れるまでは、捨ててはいけません。

じっさいに、すこしはたらいってみて、「給料もらいながら、社会勉強をして」、もし、いやなら、他の会社から「内定とってから」やめてもおそくはありません（というか、そのまえにやめてはいけません）。

それでも、どうしてもおちこんでしまうのなら、本書のおわりにメンタルヘルスについてのでておきましたので、そちらを、参照してください。

050811【「新卒正社員」の「ラベル」がないと、いっしょう、非正社員】

なぜ、わたしが「どんな会社でもいいから内定とるように」とこだわるのかというと、「大人の目」からみて、「新卒正社員であったか、なかったか」が決定的に大きな「ラベル」になるからです。

わたしは大学教員として、学生さんをみじかにみてますから、内定とった学生さんと、就職が決まらずに卒業していった学生さんが、そんなにちがいはないのは、知っています。

しかし、大学生の現状を知らない大人たちは、そう、思いません！。

【大学卒業時に、正社員でなかった人は、よーつぼどの事情があって、どーこの会社も採用してくれなくて、正社員に「なれなかった、人」だ】と会社側はみてしまいます。

学生の方は、「新卒正社員」に「ならなかった」とおもっています。が、

会社の方は、「新卒正社員」に【なれなかった】とみてしまいます。

したがって、その後の求職活動などにおいて、決定的に「不利」です。

さきほど、「インターン」「新卒正社員」「第二新卒就職」の「三回戦」だ」といいました。しかしこれは、あくまで、第二段階の「新卒正社員」になることが必要条件です。

この意味でも、【どこでもいいから、新卒正社員になれ】といたいのです。

050811【正社員になれなかった男性は、お嫁さんこない】

050812 もちろん、現状では、すべての就職志望学生さんが、正社員になるということは数字的にあり得ないはなしです。社会は非正社員化していくでしょう。わたしの知り合いの学生さん（卒業生さん）にも、非正社員として、立派にはたらいていらしゃるかたが何人もいます。どのような職業につこうとそれはご本人の問題です。職業に貴賤はありません。

しかし、すくなくとも経済的な有利不利があるのは事実でしょうし、進路選択にあたっては、それをしっかり視野にいれて、選択すべきでしょう。

試算の仕方にもよりますが、正社員とフリーターでは、生涯所得（賃金と年金）で、約3対1、差額三億円、（「フリーターvs 正社員の差は3億！」

<http://allabout.co.jp/finance/401k/closeup/CU20041013A/index2.htm>）と、いったところが、定説のようです。

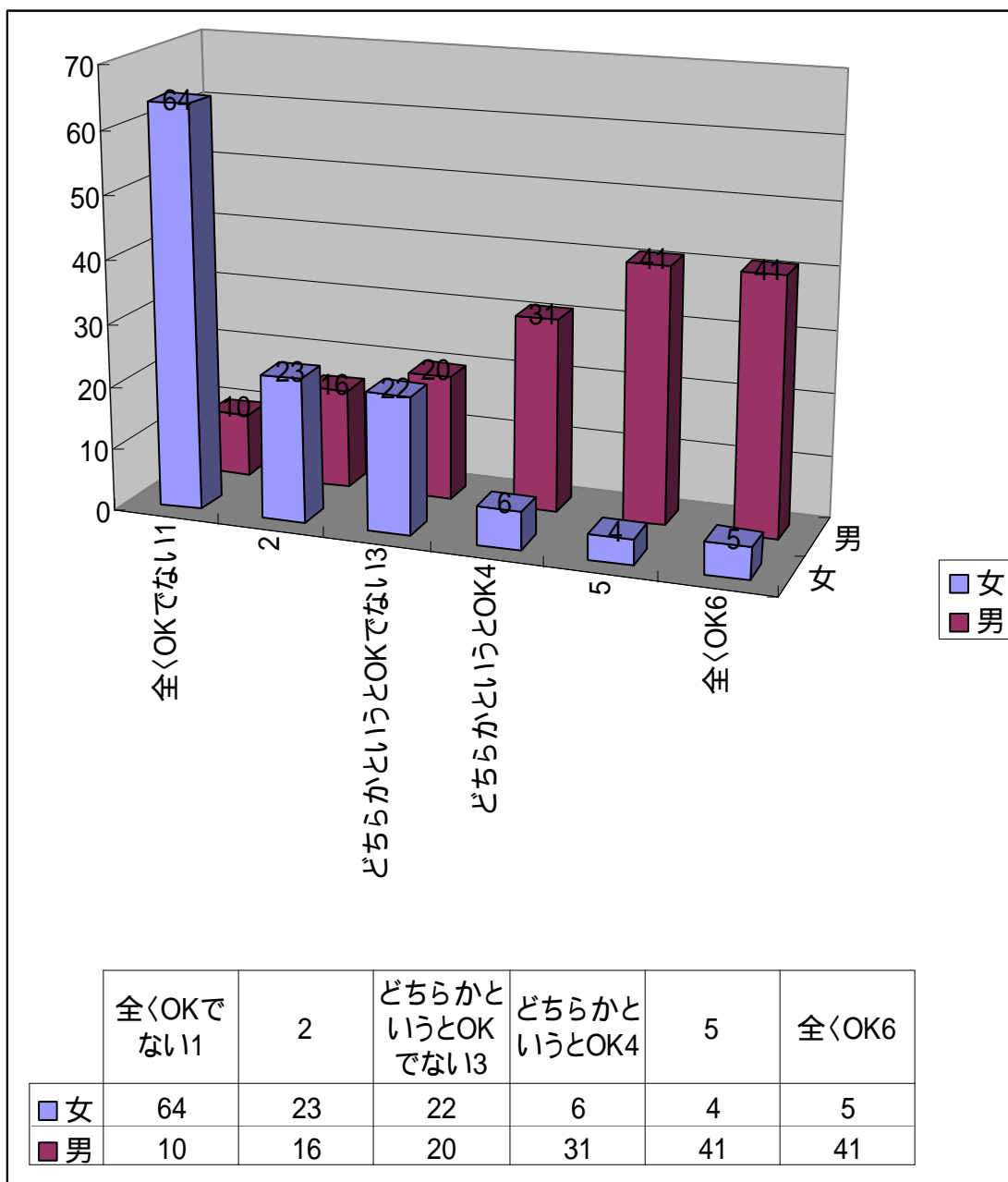
以下は例によって、われわれの調査結果です。

「CD あなたは、フリーターが結婚相手でも OK ですか。

6 . まったく、OK。 5 . まあ、OK。 4 . どちらかという、OK。 3 . どちらかという、OKでない。 2 . まあ、OKでない。 1 . まったく、OKでない。

」

という「設問 回答」を男女別に集計したものです。前列の女性の回答をご覧ください。



圧倒的多数が、「結婚相手がフリーターでは、まったく、OKではない」と回答しています。

男性の場合、フリーターだと、結婚することがとてもむずかしくなることが推測されます。

050812 くりかえしますが、いまや正社員になりたい人すべてが正社員になれる時代ではありません。また、正社員になることだけがその人の幸せにとって、決定的な要因であるわけでもありません。

しかし、卒業前の学生さんの多くが、「目の前のどっかの会社に就職する」のが「いや」なために、安易に「新卒無業」を選択しているとおもいます。

新卒無業には、ラベル上（前項）も、実際上も、これだけの「不利益」があるのだ、と十分自覚して、進路選択をしてほしいものです。

あるいは、「あー、もー、フリーター【でも】いいやー！」となりそうになったら、「いや、いや、ここが人生の踏ん張りどころ！、嫁さんこないぞ！、どこでもいいから、「新卒正社員」ラベル、正社員ラベル、正社員ラベル、……、」と

「へこみ・なげやりモード」から、「お気楽・必死」モードに、スイッチングして、「残った可能性、全部、つかう」ようにしましょー！

050811【「新卒無業」は、ひきこもり、への、「ゆるーい、下り坂」？】

新卒無業は、ひきこもりへの懸念がありますね。とくに、「親元」にすんでいる人が、正社員でない場合には、ひきこもりへの懸念は払拭できないのでは？。

人間は、そんなに意志のつよい生き物ではありません。平日の9時から5時まで「拘束」されていないと、「水は低きにながれ、…」というようになりがちではないでしょうか。

この、わたしの、懸念が、「はずれ」ていることを期待しますが、……。

（このながいながい、くだりざかぁをー、ゆっくり、ゆっくり、くだってくうー、……）

050811【「四大出」て、「専門学校」も、「おおあり」。ただし、「専学」こそ、「格・ブランド」の世界である】

まあ、人類史？的にみると、あるいは、世界的に比較すると？、22歳にもなって、「ボクなにやりたいんだかわからない」とかいったひとが、ブランドもあって、給料もよくて、やりがいのある仕事につける、っと考える方が「甘い」ような気がします。伝統的にも、15歳で、人生の志をたてるのが、君子、でしたし、まあ、寿命のびたので、15歳とはいえなくても、18歳から20歳ぐらいまでには、自分の職業もふくめた、人生進路をある程度かんがえて、それに即した選択をしているのが、世界の上層階級でしょう。

とはいえ、日本の若者たちが、立志が遅いのは、それはそれなりに、社会的な理由がある

ことでしょう。おそらく、いままでの、学歴システムが大きな原因だとも思います。つまり、「偏差値をあげる」ことだけを考えればよく、進路選択を考えずにすむシステムだった。将来的にはこのようなシステムを改善すべきでしょうが、目の前の学生さんにはまにあいません。じつは、こういうわたしだって、22歳ぐらいで進路選択おおいになやんだものです。

というわけで、日本の現代の大学生をかんがえると、「四年生大学でるところになってやっとやりたいことがおぼろげにわかってくる」ということもよくあることだとも思います。

あるいは、目の前の「就職」という「プレッシャー」に切迫させられてやっと、「これをやりたいんだ！」というのが見えてくるということもあるとも思います。

さらには、「新卒正社員就職」してはじめて「ボクのやりたいことは、これでなくて、あれ、なんだ！」とみえてくるひともいるでしょう。

というわけで、「四大卒業、前後！」になって、(職業にむすびついた)「専門」の勉強をもう一度やりなおしたい!、とおもうひともおおくなってくるでしょう。

050812 システム的には、「大学院」がこれに対応できる機能をもっているといいのですが、現状では、そうなっているとは言い難いです。「専門職大学院」というのもつくられつつありますが、「弁護士」とか「臨床心理士」とかいった、ごく少数の高給専門職に対応しているだけです。他の「文科系大学院」も「定員」だけは、いっぱいありますが、「モラトリアム人間収容所」となっているところも少ないと感じられますので、十分警戒しましょう！。

050812 というわけで、「四大」卒業してから、いわゆる(大学院でなくて)専門学校にいこう、と考える人もふえていくのではないか、とも思います。

050812 わたしとしては、「この進路、おお、あり！」だともっています。

050812 先見の明のある専門学校では、すでにこのような事態に対応して、「大卒対象」のコースをつくっているところもあるようです。

050812 「四大卒」の教養知識(が、あれば、ですが)と専門知識とそこで得られる専門家たち・業界人とのコネクションを、もって、専門的職業にすすんでいく、ということはあるくない進路だとも思います。しかし!!、、、

しかし、「専門学校」に行くには、大学院に行く以上に【**厳重注意!**】しなければならないことがあります。

050812 それは、専門学校は、(大学・大学院以上に?)「格とブランド」の世界だ、ということ。

050812 かんがえてもごらんなさい!。ここでも「大人の常識」をはたらかせてみましょう!。大人の常識なら、専門学校は、大学にはいれなかった高校生がいくところ、でしょう(わたしがそうおもっているわけではないですよ!)。

050812 ですから、それぞれの、業界で、評価されている専門学校は、じつはごく一部でしょう。

050812 最終的にはケースバイケースでしょうし、わたしはくわしくはわかりません。が、まあ、常識的にいって、各業界の「トップワン」の専門学校以外は、四大卒でいくには、「それに値するもの」となるかどうかは大いに疑問でしょう。

050812 ここでも、インターネット(とくに掲示板系の第三者の評価)や、大人への評判聞き、などをつうじて、十分情報収集してください。ここでも、会社選択と同様な、「相手を見る目」が問われています。

050812 専門学校進学が、「さらなる現実逃避」とならないように、あなたにとって「時間と金その他をかけるに値した、価値ある選択」となるように十分注意してください。

050812 【自分の人生への投資を避ける貧乏人の発想法!、に、ご注意】

大学を卒業後にさらに進学するとなると、お金が問題になります。最終的には、各ご家庭の問題ですので、わたしがとやかく口出しするつもりはありません。が、ひとつだけいいたいことがあります。

050812 それは、「費用がかかることを理由に、進路を断念する」ことはくれぐれも慎重に、ということです。

大学を卒業後も、なんらかの進学をすることには大きなお金が必要です。学生さんのバイト代からみると、一ケタ・二ケタ大きな金額でしょう。それで、「これは無理だああ」と決めてしまわないこと。

進学は、「投資」です。バイトで稼いだ金を遊びに「消費」するのとは違います。もし、あなたが、「価値ある」進学することができれば、（それはもちろん、お金にだけは換算できないでしょうが）、先ほどの正社員とフリーターの比較と同様な「生涯賃金の差」となるでしょう。

アメリカなどでは、大学より上の「学費」は学費ローンなどで、学生本人が負担するのが常識のようです。

こうすることで、進学・進路についての「損得」意識のたかまり、進路選択も真剣になるでしょう。

日本でも多くの学校で、学費ローンがつかえるようになってきたようです。たとえ、学校で、ローンを斡旋していなくても、銀行に直接かけあって、ローンを組むことも可能です。もちろん、サラ金・街金融のたぐいには絶対手を出してはいけません！。

多くの学生さんが、「金策」について「完全に調べた」わけでもないのに、「なんとなく、この進路は金がかかりそうだから、、、」という理由で「ひいて」しまっています。

はっきり、いいましょう。これは、「貧乏人から抜け出せない思考パタン」です。こうして、「貧乏人の子どもは、また貧乏人に、、、」という「階層の再生産」につらなっていきます。

もちろん、金かけて、借金して、進学しても、それに値する結果が得られる保証はありません。

しかし、「調べ尽くす前から」、なんとなく、この路線は「金かかりそうだから、パス」という発想法は、

【自分の人生への投資を避ける貧乏人の発想法！】です。十分、警戒しましょう。

+++++